

私立短期大学図書館協議会

会報

Bulletin of Junior College Library Association

発行者：安部 叁 巳

発行所：私立短期大学図書館協議会
〒228 相模原市文京2-1-1相模女子大学短期大学部図書館内
電話：0427-42-1411

1994. 3 No. 34

◇ 平成5年度短期大学図書館全国研修会開催 ◇

参考業務と書誌 — 美術：調べるテーマと求める資料
法律：法律文献情報へのアクセス
をテーマに講義と演習

日 時 平成5年11月18日(木)～19日(金)
会 場 全水道会館(東京・水道橋)
テーマ 参考業務と書誌
講 師 波多野宏之氏(国立西洋美術館)
小黒 庸光氏(武蔵野美術大学美術資料図書館)
大越 鉄雄氏(中央大学図書館)
参 加 83名
主 催 私立短期大学図書館協議会

第1日目、安部会長の開会挨拶と2日間の日程についてのオリエンテーションの後、講義に入った。講義内容は波多野氏の「アート・ドキュメンテーションの世界」、小黒氏の「美術—調べるテーマと求める資料」、大越氏の「法律—法律文献情報へのアクセス」で、要旨は下記のとおり。なお、各講義の詳しい内容は「短期大学図書館研究第14号」に掲載される。2日目、参加者は10グループに分かれ、会場に用意された各種の書誌を使って、与えられた課題を解決していく演習に取り組んだ。最後に解答をグループごとに発表し、講師の先生方から評価、指導を受けた。

又、1日目の6時より近くの「シエン・ジ・クルーズ」にて懇親会が開かれ、講師の先生方や知りあったばかりの仲間となごやかに歓談した。

◇ アート・ドキュメンテーションの世界
波多野 宏之氏

1. ドキュメントする志：アート・ドキュメンテーショ

ンというものはどういう所で、どういうことを扱っているのか。どういう人たちがこれから何を目差そうとしているのか。ミュルーズ染織美術館では、ごく小さな布の見本がスクラップブックにはって部屋中にあった。これもドキュメントである。紙に印刷されたものもドキュメントではあるが、それを越えて、博物館や美術館の資料もまたドキュメントなのである。はたして、資料を扱う立場からそれをドキュメントとして、年月をかけて集積し、整理し、検索し、提供できるような態勢、そういう扱いをする歴史的な視点が日本にどれだけあるだろうか。

2. ドキュメンテーションと図書館：パリのオルセー美術館には資料室があり、図書館とドキュメンテーションがわかれている。

3. 美術作品と美術(研究)資料：美術作品の研究のためにマールブルガー・インデックスやICONCLASS等がある。

4. コレクション・マネジメント、スライド・ライブラ



リー、美術図書館・アーカイヴ

5. アート・ドキュメンテーションの世界：オリジナルデータ、画像データ、成長するデータ

6. アート・ドキュメンテーションを担うもの：IFLA美術図書館分科会、アート・ドキュメンテーション研究会

◇ 美術－調べるテーマと求める資料

小黑庸光氏

1. 華の命は結構永い：美術という言葉は“美”の方に力点がおかれがちだが、アートとはもともと“術”が語源であり、“術”には非常に深い世界がある。
2. 花園は結構複雑：美術は奥行きが深く、我々はすべての状況を図書や雑誌等でとらえていかななくてはならない。
3. 花守たちは結構大変：学会員ではあるが、それと同時に雑芸員のようなものでもある。
4. 花の特捜隊は…：作品、作家、歴史、地理、技法など、リクエストは四方八方からやってくる。

5. 資料の出番：美術全集、美術大事典、画集、作品集、各美術図書・年鑑類、美術雑誌・新聞等。

6. 花の水先案内人

◇ 法律－法律文献情報へのアクセス

大越鉄雄氏

1. はじめに、レファレンスと法律相談－図書館員は資料と利用者をつなぎ合わせることが仕事であり、法律に関するレファレンスは慎重に行うべきである。最近の法律問題－セクシャルハラスメント、夫婦別姓等。
2. 法令のさがし方：六法全書には約9百件の法令が収録されているが、日本の法律はその10倍はある。
3. 判例のさがし方：日本は判例主義ではないが、類似ものに対しては判例は生きている。判例集には「行政事件裁判例集」等、判例を掲載している雑誌には「判例時報」、「判例タイムズ」等、加除式判例集には「判例六法」等がある。
4. 法律論文のさがし方
5. 外国法の調べ方

全国研修会参加者アンケート結果

実施日時 1993年11月19日

回答枚数 60枚（参加者数82名 回収率73.2%）

- | | | |
|--------------------------------------|------------------------------------|-----|
| 1. 図書館経験年数（回答数53名） | る講師でよかった | 4名 |
| 1)1年未満1名、2)1-3年22名、3)4-5年7名 | 2)親切に分かり易く話してくれた | 8名 |
| 4)6-10年9名、5)11-15年9名、6)16年以上5名 | 3)法律は分かり易く、楽しかった | 2名 |
| 2. 個人の参加回数（回答数60名） | 6. 演習について（感想44名） | |
| 1)初めて 31名、2)2回 19名、3)3回以上 9名
不明1名 | 1)初めてみる書誌もあり、手にふれてよかった | 10名 |
| 3. テーマについて（感想47名） | 2)勉強になってよかった | 6名 |
| 1)よかった、興味がもてた、面白かった 20名 | 3)参考書誌はもう1セット欲しかった | 8名 |
| 2)専門に関係しているので参考になった 9名 | 4)参考文献の紹介がありよかった、書誌リストが参考になった | 3名 |
| 3)専門学科にはなく、余り関わりのないテーマであったが興味がもてた 8名 | 5)演習問題は適切であった | 4名 |
| 4)レファレンスに応じきれない分野であり、参考になった 2名 | 6)グループ毎で意見の交換ができてよかった | 1名 |
| 5)2つの分野から選ぶなら関連する分野がよい 2名 | 7)演習時間は充分 3名、不足 14名、短い 3名 | |
| 4. 講義について（感想37名） | 7. その他（感想37名） | |
| 1)よかった、面白い、参考になった 24名 | 1)有意義で楽しかった、また参加したい | 17名 |
| 2)丁寧でわかり易かった、熱心で熱意があった 7名 | 2)時間がたりなかった | 3名 |
| 3)文献解題をもっとやって欲しい 2名 | 3)会場が狭い、トイレが少ない | 各3名 |
| 5. 講師について（感想38名） | 4)ビデオ（図書館の達人）はよかった、別会場にして自由参加でよかった | 各3名 |
| 1)専門分野に知識が深く、第一線で活躍してい | 5)懇親会の費用はもっと安く | 2名 |

（研修担当：中村洋子）

地区活動報告 — 第33号以後 —

〈北海道地区〉

・平成5年度研修会

全国図書館大会第4分科会を本年度の研修会に充当

日時：平成5年9月30日（木） 9:30～16:00

会場：かでの2・7

テーマ：AV資料と著作権

講演

1. 前園主計氏（青山学院女子短期大学図書館長・教授）：著作権と図書館
2. 名倉雅夫氏（東和エンジニアリング教育システム部課長）：図書館における視聴覚設備の現状と実例について

事例発表

1. 三島啓子氏（札幌大谷短期大学）：札幌大谷短期大学におけるAVサービス
2. 川井依玖子氏（東京文化短期大学）：短大家政科におけるビデオ資料の活用
3. 谷合美千子氏（実践女子短期大学）：AVセンタースystemによる視聴サービスについて

・新規加盟館

北海道文理科短期大学附属図書館

平成6年2月承認 会勢20館

・大学・短大・専門図書館相互協力委員会の設置について

平成6年2月23日、北海道地区大学図書館協議会、私短協北海道地区協議会、専門図書館北海道地区協議会が会合し、高等専門学校図書館も加えた4団体で委員会を構成して、相互協力の具体的実現に向け検討することとした。

〈東北地区〉

・平成5年度総会・研修会

日時：10月9日（土） 13:10～17:00

会場：桜の聖母短期大学会議室

出席館 9館（16名） オプザバー館 1館（1名）

〈総会〉 13:15～14:20

議題：1.平成4年度活動報告

- 2.平成4年度会計報告・監査報告（承認）
- 3.平成5年度活動方針・予算案（承認）
- 4.平成5年度全国理事会報告
- 5.その他

①本部年会費値上げについて

②東北地区協議会の旅費について

〈研修会〉 14:40～15:50

講演会

講師：私立短期大学図書館協議会会長 安部糸巳先生

テーマ：「短期大学における図書館の役割」

〈各館の活動報告〉 16:00～17:00

- 1.図書館の地域開放について
- 2.外部データベースとの接続について
- 3.利用者教育について
- 4.図書館のPR（応報誌等）について

〈懇親会〉 18:00～20:00

∴なお、安部糸巳先生の講演記録は、東北地区図書館協議会15館及び未加盟館（オプザバー館として参加）1館に配布致しました。

〈関東甲信越地区〉

7月20日 地区会報 No.17 発行

9月9日 第3回幹事会開催（目白学園総合図書館）

- 議題
1. 合宿研修会実施について
 2. 名簿刊行について
 3. 雑誌所蔵目録刊行について
 4. その他

10月18日 合宿研修会開催（千葉県鴨川「カンボ潮風荘」にて）

共通テーマ：図書館の自己評価と着眼点
基調講義 毛利和弘氏（亜細亜大学）
パネラー 毛利和弘氏（ ” ）
相沢修一郎氏（淑徳短大）
若月博雄氏（東横短大）

19日 教養研修（史跡探訪）

12月10日 地区会報 No.18 発行

12月13日 第4回幹事会開催（目白学園総合図書館）

- 議題
1. 合宿研修会の反省について
 2. 雑誌所蔵目録刊行について
 3. 次期合宿研修会のテーマについて
 4. 総会及び見学会について
 5. その他

新規加盟館 女子美術短期大学図書館
会勢 103館

〈東海・北陸地区〉

1. 平成5年度第3回幹事会

日時：平成5年9月9日（木） 11：00～15：00

場所：愛知女子短期大学

出席者：8校13名

議題：(1)平成5年度総大会の総括

(2)平成5年度研修会実施要項について

(3)研修・会報委員会

(4)その他

1. 私立短期大学図書館協議会会費について

2. 「短期大学図書館研究第14号」原稿依頼について

3. 平成8・9年度会長校について

2. 平成5年度研修会

日時：平成5年10月9日（金） 10：00～16：15

場所：名古屋女子文化短期大学

出席者：36校49名

〈研修会〉

会長（愛知女子短期大学図書館長）荻原啓作先生の開会挨拶、会場校（名古屋女子文化短期大学図書館長）小宮弘之先生の挨拶に続き、新加盟館（名古屋造形芸術短期大学）の紹介がされた。引き続き研修会を実施するに当り、講師「大島 茂」先生（名古屋女子文化短期大学学長）を紹介し講演会に入った。

〈講演〉

演題：「最近の大学と学生像について」

講師：大島 茂氏

講演会終了後、記念撮影、学内見学（図書館を含む）

〈研修会〉

テーマ：「図書館業務の電算化について」

報告者：株式会社ブレインテック・取締役営業統括部長・澁沢 徹氏

同：株式会社フォーティ・ワン・代表取締役・中西誠一氏

以上、研修会は質疑応答の後、16時15分をもって会長の閉会の挨拶により終了した。

3. 平成5年度第4回幹事会

日時：平成5年12月9日（木） 11：00～15：00

場所：愛知女子短期大学

出席者：9校14名

議題：(1)平成5年度研修会の総括

(2)平成5年度会報第25号について

(3)平成6年度総大会について

(4)その他

1. 平成8・9年度会長校について

2. 平成10年度からの会長校について

4. 会報第25号編集発行について

平成6年3月上旬発行予定

〈近畿地区〉

I. 幹事会

第1回 1993年9月24日（火）10：15～12：15

第2回 1993年10月12日（火）14：00～16：00

第3回 1994年1月27日（木）9：30～11：00

第4回 1994年3月14日（月）15：00～17：00

II. 研修会

第32回 1993年10月27日（水）12：15～16：45

第33回 1994年3月18日（金）12：45～16：00

III. 雑誌目録編集委員会

反省会 1994年1月27日（木）11：20～16：00

〈第32回研修会〉

日時：1994年10月27日（水）12：15～16：45

場所：立命館大学末川記念館

テーマ：大学の公開と図書館

参加者：参加館27館36名

図書館の地域公開を実施している館での取組の実際と京都で進められている施設や単位互換を含めた大学間共同の現状から大学の公開の有り方を討議した。そこから短大間の相互協力体制を模索した。

〈近畿地区雑誌目録編集反省会〉

日時：1994年1月27日（木）11：20～16：00

場所：大阪女学院短期大学図書館

内容：昨年度発行した雑誌目録の編集・発行にまつわる問題点を編集委員相互に確認し今後何らかの形で生かす事を意図した。また今後、「相互協力委員会」のようなものを持つことも確認された。

〈近畿地区館員名簿〉

相互協力と利用を進めるために、現状では、図書館員相互の人的つながりを大切にしなければならない事は論を待たないが、平成5年度の近畿地区での館員名簿を作成した。なお、各館のサービス概要を示した「相互利用案内」も発行予定。

〈中国・四国地区〉

1 第8回私立短期大学図書館中国・四国地区協議会総会・研修会一統報

平成5年7月30日（金）、松山短期大学（松山大学）で開催された。総会議事のなかでは、新加盟館、退会館の報告を行ったあと、会計報告・監査報告を行い、承認

された。協議事項では、会長館より、平成5年度私立短期大学図書館協議会全国理事会並びに総会出席報告を行い、それぞれの地区並びに館の現状及び活動について説明をした。なお、この報告の中で、会費の値上げなどについても報告と説明を行った。当番館についても、交替の時期を迎えており、次期当番館（平成6・7年度）は順正短期大学図書館（岡山）、美作女子大学短期大学部図書館（岡山）、鳥取女子短期大学図書館（鳥取）が行うこととなり、当番館の役割分担（会長館、幹事館、監査館）については、三館で協議の上、後日（平成5年10月頃までに）決定し、報告することを確認した。研修会はまず、松山大学人文学部の亀田弘教授による「図書館における利用指導の諸問題」について、松山大学で行った利用指導の実際とその展望を交えながら、具体的に示唆に富む講演があった。このあと、「自己点検・自己評価」、「利用指導の実際」、「文献複写サービス」等について熱心な協議が行われ、会を終った。

2 役員会

上記、総会・研修会当日、これに先立って、当番館（会長館—聖カタリナ女子短期大学、幹事館—松山短期大学、監査館—今治明徳短期大学）による役員会を行い、総会・研修会の持ち方、次期当番館等について、協議をした。

3 次期当番館（平成6・7年度）の役割分担

上記、総会・研修会において、宿題となっていた次期当番館の役割分担が、次のように決った。（平成5年9月）

会長館 順正短期大学附属図書館（岡山）
 幹事館 美作女子大学短期大学部附属図書館（岡山）
 監査館 鳥取女子短期大学附属図書館（鳥取）

4 加盟館32館（平成6年2月末現在）

- (1) 平成5年度の新規加盟館—3館
 安田女子短期大学図書館（広島）
 土佐女子短期大学図書館（高知）
 下関女子短期大学図書館（山口）（加盟順）
- (2) 平成5年度の退会館—1館
 中国短期大学図書館（岡山）

5 未加盟館の加盟案内

平成5年8月末現在の中・四国私立短期大学の未加盟館に対して、文書により、資料を添えて加盟の案内を行った。（平成5年9月21日）

6 私短図中・四国協ニュース 5号、6号の発行

情報連絡ニュースとして、平成5年度は5号を9月に、6号を12月に発行し、加盟館に配布した。

7 その他

- (1) 短期大学図書館研究第13号を地区協議会加盟館へ発送。（平成5年7月30日）
 - (2) 上記第14号の原稿募集について、地区協議会加盟館へ依頼文書発送。（平成5年8月30日）
 - (3) 私立短期大学図書館協議会会報No.33を地区協議会加盟館へ発送。（平成5年9月30日）
- 8 次期当番館との引き継ぎ
 平成6年3月25日、聖カタリナ女子短期大学図書館で事務の引き継ぎを予定している々

〈九州地区〉

1. 新規加盟館（平成5年7月）

香蘭女子短期大学

〒816 福岡市南区横手1-2-1

TEL 092-581-1538 / FAX 092-581-2200

2. データベース検索についてのアンケート調査実施 （平成5年12月発信）

実施期間：平成6年1月末まで

対象館：九州地区加盟館 35館

アンケート項目：

- I オンライン検索によるデータベース利用
- II CD-ROMのデータベース利用
- III フロッピーディスクのデータベース利用
- IV 図書館作成のデータベースの有無
- V コンピュータによるデータベース検索への意見、感想

3. 機関誌「ニューズレター」No.16（平成6年1月13日）

発行。担当館：福岡女子短期大学。

記事項目は次のとおり。

《特集》：平成5年度九州地区私立短期大学
 図書館協議会総会・研修会

- ◇ 平成5年度総会・研修会回想
 中九州短期大学 館長 旭 啓之
- ◇ 承合事項 教職員図書館利用規定について
 西日本短期大学 坂口 裕美子
- ◇ 事例発表

1) 図書館業務の電算化短期大学トータルシステムの稼働をめざして

純心女子短期大学 山下 真美

2) 本学図書館のコンピュータ化

第一保育短期大学 古賀 悦子

3) 自館製作ビデオ「図書館利用案内」について

東筑紫短期大学 桑原由希恵

- ◇ 意見・感想・要望 etc.

沖縄キリスト教短期大学	館長 漢那 憲治
近畿大学九州短期大学	村井たか子
銀杏学園短期大学	松岡 詠子
熊本短期大学	津村 秀夫
西南女学院短期大学	渡橋 英子
筑紫学園短期大学	樋本 美子
久留米信愛女学院短期大学	山本 稔子

◆ NACSIS-MAIL で広げよう図書館の輪

筑紫学園短期大学 原野 綾子

◆ トピックス

近畿大学九州短期大学図書館

精華女子短期大学図書館

西南女学院短期大学図書館

麻生福岡短期大学図書館

4. 平成6年度総会・研修会について

期 日：平成6年4月21日（木）

会 場：みやざき会館

当番館：宮崎女子短期大学

研修会（事例発表）

1) LICS-UとUNIXによる図書館システム：

コンピュータは永遠の未完製品

鹿児島純心女子短期大学 川路 孝昭

2) パソコン1台で利用できる学情センターと

インターネット

筑紫学園短期大学 山本鉄二郎

東北地区協議会に出席して

菅原 春雄

去る10月9日、福島市内の「桜の聖母短期大学図書館」において東北地区私立短期大学図書館協議会総会並びに研修会に本部より、安部会長と私が出席した。本部の活動事業として、昨年より地区の活性化を図ろうということで、第1年目は、昨年中国・四国地区へ安部会長と毛利理事の出席、第2年目の今年は会長と私の出席。

桜の聖母短期大学は、福島駅より車で10分のところにあり、午後1時より開催され、学長あいさつ、理事校の館長富良謝純先生の開会宣言、同館の遠藤修司氏の司会により進行、また議長には同館の斉藤雅代氏が選出され、予定された平成4年度活動報告や、決算、平成5年度活動方針、予算等原案通り承認され、会議は無事終了。

引き続き本協議会々長安部益巳先生の講演「短期大学における図書館の役割—明日の短期大学図書館の目指すもの—現状と展望」と題して、約1時間にわたって講

演された。短大図書館における課題は、18才人口の減少による大学経営の問題や短大設置基準改正にともなう諸問題、例えば、図書館における自己評価とか、短大図書館の現状を事例を紹介しながら今後各々の図書館でのとりくみ姿勢など話され、参加者のあらたな認識を深めた。

続いて私の出番でしたが、事務局との連絡がうまく行かず、期待された東北地区の活性化に対してのアドバイスであったが、時間の関係で本部の状況報告とお願いで終わった。最後の時間は、あらかじめ4つのテーマについて事前に課題を出しておいて当日発表や情報意見交換の時間であった。1) 図書館の地域開放について、2) 外部データベースの接続、3) 利用教育について、4) 図書館PR。

全般的に見て、午後1時から5時までという半日スケジュールの中での会合は、すこし無理があったのではないかという感じ。最後の情報交換でも物たりなかった。引続いて有志による懇親会が行われたが、そこでも意見交換が行われ、電算化も徐々に導入されつつあるなと思った。東北地区は地理的条件もよくありませんが、例えば、東海・北陸地区のように、仙台を中心に、何か二地区に分け、地区ごと分科会も必要ではないかと思われる。以上参加しての感想を述べた次第である。

（文教大学女子短大部・本部役員）

新規加盟館紹介

〈土佐女子短期大学図書館〉

青い空、ワシントンアの木、そんな南国高知にふさわしい広大な田園風景の中にそびえ立つ、淡いピンクの建物が、土佐女子短期大学です。西方には、昨年の秋オープンした県立美術館があり、今注目の文化エリアに位置しています。

1993年4月の開学に伴い、土佐女子短期大学図書館は開館致しました。蔵書数約18,000冊（うち洋書約4,600冊）で本学は英語科と秘書科から成るため、構成は人文・社会系中心です。ブックディテクションを通ると右手にはカウンターがあり、ここでコンピュータによる貸出・返却を行っています。学生用の検索機も一台備えています。左手にはブラウジングコーナーがあり学生達のリラックスの場となっており、またその奥のAVブース（ビデオデッキ4台、カセットデッキ3台）では語学の勉強に熱心です。開館して、もうすぐ1年が経とうとしておりますが、館員（専任司書1名）もまだまだ手探り状態で、学生達のいろいろな要望に応え、常にカレントな情報を提供していきたいと、課題1つ1つに取り組んでいます。

学生達の憩いの場、知的発見の場となるようなそんなフレキシブルな図書館を目指し、これからも頑張って行きたいと思えます。

まだよちよち歩きの当館を、以後よろしく御指導下さい。



〈和泉短期大学図書館〉

和泉短期大学は、全国でもめずらしい児童福祉の単科大学です。その前身は1960（昭和35）年世田谷区玉川中町に開設された玉川保母専門学院で、図書館の歴史はここから始まります。

現在本学は、窓の向こうに丹沢の山々を見渡す相模原の市内にあります。図書館は独立館ではなく一般校舎の3階にあり、面積430㎡・蔵書約4万5千冊と小さく、図書館と言うより“図書室”のほうが合っているかも知れません。児童福祉の大学ということで、特に幼児教育（376）と福祉（369）の棚に蔵書が集中しています。他にも絵本や紙芝居を中心とする児童書の棚や、楽譜（ピアノレッスン用）の棚があることも大きな特色です。

また、キリスト教系の大学ですので、キリスト教関係図書も集めており、近くの教会の牧師さんから本の問い合わせを受けることもあります。

職員は3人体制（専任2、非常勤1）と決して十分な数ではありません。現在の職員はいずれも他での仕事を経験しており（公共図書館1、他大学図書館1、商社1）、またこの職場に4年と勤務していないフレッシュな者同志です。利用の多くは学生で、特に“絵本を100冊読んでレポートを書く”といった課題が毎年出されるので、その時には当然貸出しが多くなり、手作業（実はいまだにニューーク方式）では非常につらい思いをしています。

とにかくこの状態から一步でも図書館運営を充実させるべく地道に活動しております。諸先輩方のお知恵を拝借出来ないかと考えていますので、なにとぞよろしくお願いいたします。（和泉短期大学図書館 平塚豊）

〈名古屋造形芸術短期大学附属図書館〉

昭和60年4月名古屋造形芸術短期大学の小牧移転に伴い、同朋大学、名古屋音楽大学との共用館である同朋学園大学部附属図書館より同小牧分館として分離後5年の歳月を掛け、学習図書館機能の位置付けならびに研究図書館の基礎整備、選書機能の確立、館則（図書館規程）の整備など、図書館基盤の整備を着実に進め、平成2年4月名古屋造形芸術大学の開設を機に、小牧分館を改組転換、「名古屋造形芸術大学附属図書館・名古屋造形芸術短期大学附属図書館」（共用館）として一層の充実を図っております。

本学図書館の歴史は、名古屋造形芸術短期大学が開校された昭和42年に遡ります。名古屋造形芸術短期大学の開設は、自由なそして創造性の豊かなアーティスト、デザイナーの養成を目指し、実社会で活躍できる人間教育と一人一人の個性を尊重した実際教育に重点をおいてきました。その教育の意図するところは、産業界をはじめ関係者の間に広く共感を呼び現在に至っています。

本学図書館が収蔵する資料は現在約6万点を超え、美術、工芸、デザインを中心に収集した蔵書はまだ小規模ではありますが、本学図書館が他に誇れるものであると思います。「芸術」に関する資料の殿堂として貢献できる図書館を目指し、改組後も蔵書の充実に懸命の努力を続けています。また今後も美術系大学の図書館として特色ある資料の収集・構築を図り、他大学・他機関との情報交換、相互貸借、相互利用と共に、地域への解放を積極的に進め、より一層利用者の期待に応えることのできる図書館として使命を果たしてゆきたいと考えています。

私立短期大学図書館協議会の各加盟館の皆様には、これから何かとお世話になる事と存じますが、ご指導・ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

一 本 部 報 告 一

〈会 勢〉

北海道	20	東北	15	関東甲信越	103
東海・北陸	45	近畿	74	中国・四国	31
九州	35	計	323	館	

〈新規加盟館〉

①名古屋造形芸術短期大学附属図書館

〒485 愛知県小牧市大字大草字年上坂 6004

☎ 0568-79-1111

②女子美術短期大学図書館

〒166 東京都杉並区和田1-49-8

☎ 03-5340-4514

③下関女子短期大学図書館

〒 750 下関市桜山町 1-1

☎ 0832-23-0338

④北海道文理科学短期大学図書館

〒 069 江別市文京台緑町 582-1

☎ 011-386-1112

〈本部役員会〉

平成5年度第5回

日時：平成5年10月30日(土)

場所：亜細亜大学短大部図書館

議題：

- (1)平成5年度全国研修会について
- (2)「短期大学図書館研究」第14号について

平成5年度第6回

日時：平成6年1月29日(土)

場所：ホテル亀屋

議題：

- (1)平成5年度全国研修会(反省)について
- (2)「短期大学図書館研究」第14号について
- (3)会報第34号について
- (4)平成5年度地区特別助成金について

平成5年度第7回

日時：平成6年2月21日(月)

場所：跡見学園短大図書館

議題：

- (1)「短期大学図書館研究」第14号について
- (2)会報第34号について
- (3)平成6年度事業計画及び運営方針について

平成6年度会費の値上げについて

この件につきましては、昨年7月29日付文書でもって全加盟館にお知らせしてありますが、平成6年度より年会費1万円を1万5千円にする予定です。正式には平成6年度総会(5月下旬開催予定)で承認される予定です。各加盟館のご理解とご協力をお願いいたします。

平成6年度全国研修会のご案内

本協議会主催の平成6年度短期大学図書館全国研修会を下記により開催する予定です。詳細は未定ですが、各館の日程に入れて多数参加されるようお願いいたします。

日 時：平成6年11月24日(木)～25日(金)

会 場：日販本社ビル(お茶の水)

テーマ：未定

講 師：未定

「短期大学図書館研究」第14号(1994) 内 容 紹 介

I 特集 情報メディアの多様化と短大図書館

—その組織化と運用—

- (1) 笹村公子：AVライブラリーの運営をめぐって
—シオン短期大学の場合—
- (2) 川井依玖子：短大図書館におけるビデオ資料の活用
- (3) 谷谷美千子：「AVセンターシステム」による視聴サービ
- (4) 小宮弘之・永濱美砂子・原田俊成：短大図書館における新しい情報メディア—東海・北陸地区の場合—
- (5) 玉岡兼治：AVコーナーの運用と管理について
—聖カタリナ女子短期大学附属図書館の事例から—
- (6) 遠藤修司・斉藤雅代：小規模短大図書館の機械化
- (7) 山本鉄二郎：パソコンによる学術情報センター大型計算機センター・インターネットの利用について

II 一般論稿

- (8) 坂本龍三：函館地方における図書館の発達 その2
—思齋会の解散と公立函館書籍館の設立、廃館まで—
- (9) 毛利和弘：図書館の自己点検・自己評価
- (10) 相沢修一郎：淑徳短期大学図書館の自己点検・評価について
- (11) 嵯峨野明子・奥泉和久：本学図書館における利用者サービスについて
- (12) 藤原是明：図書館員のためのマイクロカウンセリング入門
- (13) 若月博雄：随筆「図書館員とは」

III 研修会(参考業務と書誌)報告

- (14) 波多野宏之：アート・ドキュメンテーションの世界
- (15) 小黒庸光：美術—調べるテーマと求めるテーマ—
- (16) 大越鉄雄：法律文献情報へのアクセス

—本年7月発行予定—

◀ 編集後記 ▶

会報第34号をお届けいたします。お手許に届くのが少し遅くなって済みません。今号は全国研修会のご報告を中心に編集しました。今年も多数ご参加下さい。(吉岡)